

平成30年 7月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成30年7月の山梨県内の全業種のD I値は、前年同月と比較し、売上高は16ポイント、収益状況は6ポイント、景況感は4ポイント改善した。

前月との比較では、売上高で4ポイント、収益状況は8ポイント悪化した。景況感6ポイント改善している。

業種別のD I値では、製造業は、コンクリートの材料となる骨材が好調、自動車製品の受注の拡大から設備投資の報告があったが、半導体関連の発注量の落ち込みや、菓子製造業では燃料費の高騰を価格に転嫁できない状況が報告され、製造業全体としては、前年同月比で売上高は5ポイント改善、収益状況及び景況感それぞれ5ポイント悪化となった。

非製造業では、記録的な猛暑の影響からエアコン販売・修繕の需要が増加し、宿泊業では観光客が減少すると想定していたが例年通りの客数であったとの報告があった。建設業は大型建築物が消費税増税前の発注が増加。工事件数及び請負金額の増加し、非製造業全体としては、前年比、売上高売上高は23ポイント、収益状況は14ポイント、景況感10ポイントそれぞれ改善した。

経済状況の大きな変化や経営資源の要である人材の不足など、中小企業者が置かれている経営環境は今後厳しくなることが予想され、中小企業者の事業の維持発展につながる施策が望まれる。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	西日本豪雨被害及び猛暑の影響から前年同月比の売上はギフト関係は91%、業務用75%で全体では91.1%と低調であった。
食料品（洋菓子製造）	自社製品は専門店向け及び量販店向けとも横ばいだが、輸出向けが好調で105%。OEMは焼き菓子が好調だが、冷凍ケーキが不振で96.9%全体で前年同月比104.5%。
食料品（パン・菓子製造業）	売上高は前年同月比113%。ボイラー燃料となる灯油が高騰しており収益を圧迫、収益状況は改善しない。電気稼働するボイラーの導入を検討したが、電気は火力発電が多く、原油価格に比例して電気代も上がるため厳しい状況である。
窯業・土石（砂利）	需要に対し骨材が足りていない。不足する骨材の確保に努めたい。
窯業・土石（山碎石）	市況ではコンクリート用の碎石の出荷は前年比で増加したとは言え、2か月前の水準に戻っただけで、依然として低迷している。
鉄鋼・金属 （金属被覆・彫刻業・熱処理業）	6月からの半導体関連の受注量は在庫調整の影響で低調気味、売上高は3%減少した。大企業においては輸出の拡大による収益は出ているが、中小企業においては国内需要に対する依存が高いため仕事量が減少傾向。
一般機器 （工作機械部品加工業）	自動車部品の受注拡大に対応するため、新工場建設の設備投資が進んでいる。

電気機器 (工作機械部品加工業)	地域の活性化につなげるため、官公庁は地元企業への優先的な発注を推進していただきたい。
電気機器 (工作機械部品加工業)	半導体関連の受注量の減少は今年末まで続くとの見解を示す組合員が多い。
宝飾(研磨)	組合の展示会は前年より来場者数が増加し、売上高は10%増加した。

● 非製造業

卸売(ジュエリー)	国内の流通が悪く、海外、特に中国への販売に力を入れている。中国の関税が引き下げになり、今後は中国での展示会に出展し販売するようになることが予想される。
小売(青果)	お中元シーズンに入り桃の荷動きが好調だが、暑さから商品価値の低下、数量の減少と厳しい状況。野菜類は入荷薄で経過した。販売価格は品物によりばらつきがあるが、売上高は前年同月比で9.7%増加した。
小売 (電気機械器具小売業)	猛暑によるエアコンの需要が増加。冷蔵庫も需要増の状況にあり前年同月比で売上高は18%増加した。
小売 (ガソリン)	2020年3月までにクレジットカードのIC化による各給油所でのPOSシステムの入れ替えが必要となるが、1,000万円を超える設備投資になり負担が大きい。
商店街	組合で開催する通年イベントは毎年同じことの繰り返しでマンネリ気味。企画する組合員メンバーの若返りによる新しい発想の必要性を感じている。
宿泊業	例年にはない猛暑の影響から、甲府への観光は避けられると考えていたが今のところ例年並みであり安堵している。
美容業	若手経営者は自店の経営に追われ組合事業には非協力的である。組合員数が減少傾向であり、組合事業の見直しの必要性を感じている。非組合員に対する組合の魅力を伝え加入につなげて行きたい。
警備業	深刻な警備員不足により従来からの取引先の業務が受注できず、今後業績が落ち込むことを懸念している。求人を行うが求職者は極めて少なく、退職人数と併せると雇用の増加につながらない。人材確保のため更なる労働者寄りの条件の引き上げが課題である。
建設業(総合)	7月の県内公共工事動向によると、前年同月比で件数で13%、請負金額は36%増加した。7月末累計でも件数8%、請負金額19%共に増加している。
建設業(型枠)	7月は公共工事・民間工事共増加した。消費税増税前の駆け込み工事と思われるが、県内企業だけの対応が間に合わない状況である。しかし工事単価は上がらず、猛暑の影響から作業効率は上がらないため、仕事を抱えている企業ほど経営は厳しい。売上高は前年同月比で20%増加。
建設業(鉄構)	資材の在庫不足や納期の遅れから、工事期間に合わせるのが難しい状況である。
設備工事(電気工事)	猛暑の影響から、古いエアコンの修繕・取り替え工事は昨年より増加しているが、公共工事は少なく前年同月比で売上高は15%減少。
設備工事(管設備)	首都圏における東京五輪や再開発に向けた工事が活発化している。県内においても首都圏の活況が波及することを期待したい。

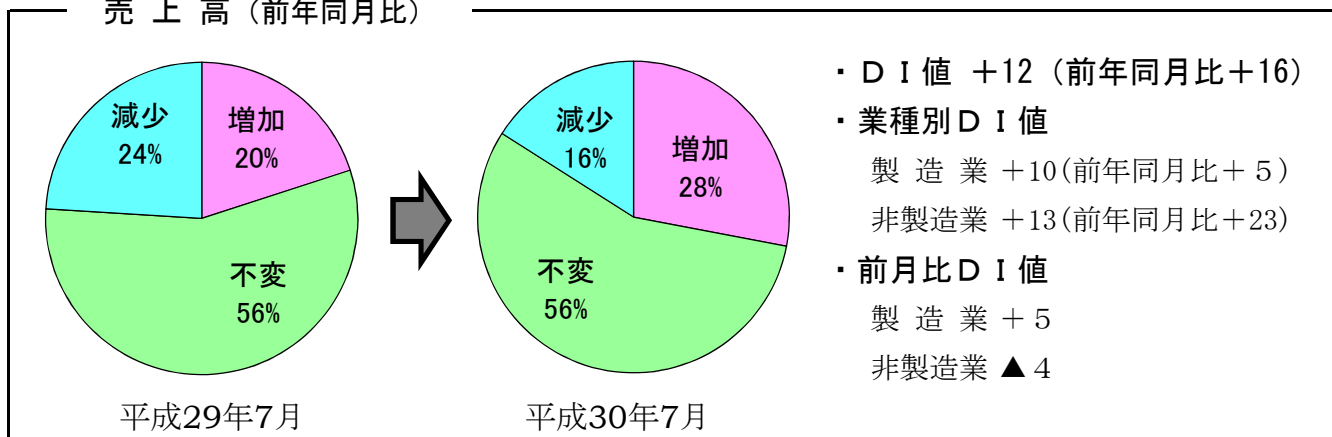
運輸（タクシー）	乗務員の不足と高齢化が課題である。
運輸（バス）	燃料高騰が収益を圧迫し、前年同月比で収益状況は20%悪化した。運転手・乗務員が不足し、人材確保は喫緊の課題である。
運輸（トラック）	人件費及び燃料費が値上がりするが、運賃に転嫁できず収益状況は前年同月比で5%悪化した。ドライバー不足が業界全体で課題となっている。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

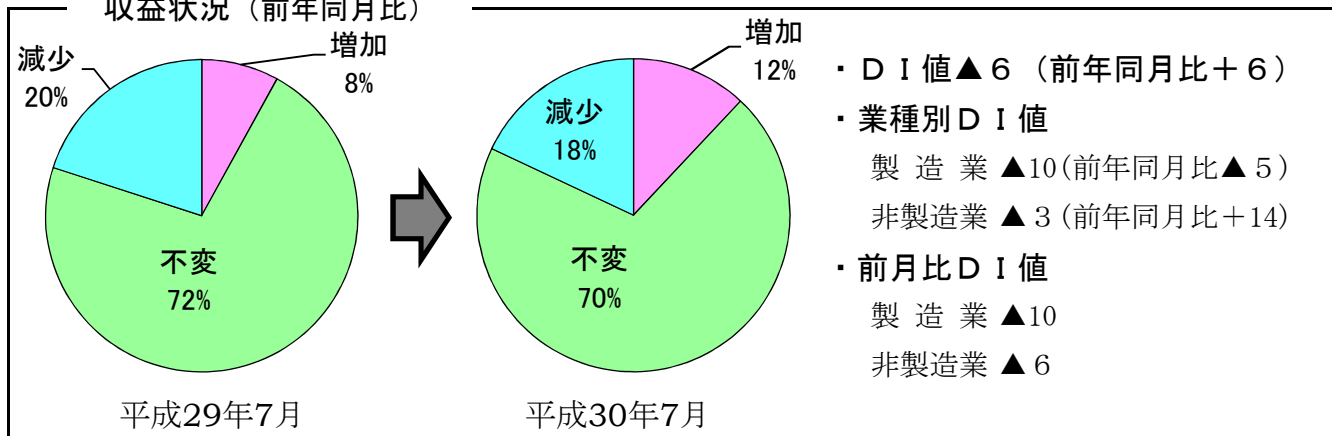
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/07	2018/06	2018/07	2017/07	2018/06	2018/07	2017/07	2018/06	2018/07
売 上 高	5	15	10	-10	17	13	-4	16	12
収 益 状 況	-5	0	-10	-17	3	-3	-12	2	-6
景 況 感	-5	-5	-10	-7	-10	3	-6	-8	-2

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

売 上 高 (前年同月比)



収 益 状 況 (前年同月比)



景 況 感 (前年同月比)

